TOKYO発

fax 03-3595-6920　email t-hatsu@tokyo-np.co.jp

絶妙のバランス　石積みアート

ロックバランシング―。自然の石を絶妙のバランスで一つ、二つと積み上げて表現するアートだ。国内の第一人者が選ぶのは多摩川の河原の石。名もなき石ころが、至高の輝きを放つ奇跡の均衡がある。

夏休みの家族連れでにぎわう横浜市内の催し会場。その一角で、身をかがめた子どもたちが石に悪戦苦闘していた。

「石の表面を触ってごらん。どこにへこみがあるか分かるよ」

ロックバランシングの国内の先駆者、石花（いしはな）ちとくさん(44)＝立川市＝が助け船を出した。

石花さんが開いた実演と体験のコーナー。斜めに傾いた石の表面にわずかなくぼみを見つけた石花さんは、ラグビーボール風の石を縦長に立てて、添えていた手をゆっくり離した。

「すごい！　もう１回やって！」。目の前には、石がありえない形で直立している。接着剤や支えなどは使わず、自然のままで。子どもたちは、手品を見たように目を丸くした。

「ぐらぐらと揺れていた石が静止して、手を離れる瞬間は、軽い神秘体験ですね。やる方も見る方も」

ＩＴ関連企業のサラリーマンである一方、石花さんは自らを「石花師」と呼ぶ。「石花」とは、ロックバランシングを指す造語。生け花のように石の美を鑑賞しようという思いを込め、自身の別名にもした。

使うのは、自宅から自転車で30分ほどにある多摩川の河原で拾った石。頭より一回り大きいものから拳大まで、大きさはさまざまだ。

きっかけは５年ほど前。近所の公園で長男を遊ばせていた時、ベンチの下によけられていた石を見つけた。大学時代はワンダーフォーゲル部。手がその時の感触を覚えていたのか、石を手に取って何げなく積み上げてみた。小さな石の上に大きめの石を載せたら、ぴたっと止まった。「ぞっとした」。石をポケットに入れて持ち帰り、いろいろな載せ方に挑戦した。

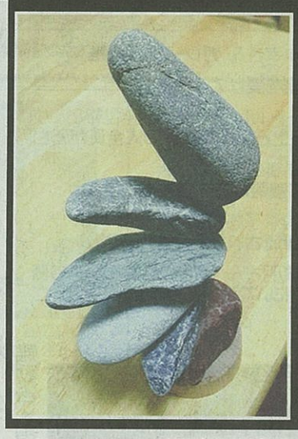
どこか哲学的…。（作品のみの写真はいずれも石花さん提供）

▼ 積むではなく「立てる」がコツ

▼ 石花さん㊨まるで手品のよう

▼ 家の中で飾ってみたら

立川の石花さん「地球と一体感」



▼ 命名「らせん」独自のスタイル

3年前、撮りためていた画像を、ロックバランシング界の大御所、米国のビル・ダン氏に送ったところ、本人から「グレート」と褒められ、会員制サイト・フェイスブックの交流ページを紹介された。「各国から100人以上の愛好者が集まっていましたが、日本人はゼロ。俺がやらなくては、と責任感がわきました」

ホームページを立ち上げて作品の画像を公開し、2012年からはワークショップを開催。現在は月に１度ほど、各地で体験コーナーを開き、普及に奔走する。

「らせん」と命名した独自のスタイルも。流線形の石を少しずつずらし重層にすることで、らせん階段のように見える。

「こんなに強い造形はほかにはない」。小石を一つ、手に取ってまじまじと見つめる。「人間が生まれるずっと前からあった石と向き合うと、地球のマグマと一体になる気がする」

石を立たせるとき、理想のイメージを当てはめようとすると大体失敗するという。「こっちの気持ちなんか関係ない。もっとシビアな法則が石の中にはある」。石を操るのではなく、石に従う。これが〝石花道〟の奥義だと考える。

体験コーナーでは、子どもたちが珍しそうに石に触りに来る。「危ないという理由で、子どもが石から遠ざかっているのでしょう。重さ、冷たさ。石の感触をもっと知ってほしい」と願う。

文・栗原淳／写真・伊藤遼／紙面構成・日比忠司

アイルランドの家族と友人へ＝スザンヌ・ムーニー

きです。ここからの眺めは一見、静的な大都市の景観日本人を見て、歴史上繰り返される街の破壊と再建を介、を。

運勢

1日（先負）

拳の先

180

〈あらすじ〉年末の岸本修斗戦で惨敗し、故郷の愛媛でけがの治療をしていた立花が二月半ばに帰京した。再会した空也に、立花は階級をひとつ下げて出直すと告げる。立花に憧れてジムに通う小学生のノンちゃんには、新しく自分の場所を見つけに行くと宣言した。

第二ラウンド開始までに少し時間があるらしく、第一ラウンドのスローモーションが映る。スローで見ると、岸本に、相手のパンチがまったくあたっていないのがよくわかった。岸本のパンチが、いかに狙い澄ました瞬間に、的確に入っているかということも。

画面が切り替わる。第二ラウンド開始のゴングが鳴り響く。相手選手はまたしても飛び出してくるが、彼が出すより早く岸本がジャブを放った。その一発のジャブで相手の勢いが消えるのが、空也の目に見えた気がした。岸本はジャブを連続して打ちこみ、ストレートを打つ。相手はまともにくらってよろけるが、倒れることなくロープを背に立ち、機を見ながらまたパンチを放ち前に出る。

一分を過ぎたあたりから、相手の手数が復活するかのように増え、よけつつも、岸本はいくつかもらっている。残り十秒の拍子木が鳴ったそのすぐあとだった。打ちにきたはずのフィリピン人選手がずさりと膝から落ちた。レフェリーが駆け寄る。実況中継が叫ぶ。レフェリーが頭上で腕を交差させ、試合終了を告げる。客席の多くが立ち上がる。

コマーシャルを挟んで、ノックアウトまでが幾度かスローで放映された。相手のパンチをよけながら、と

角田　光代 作　　池田　進吾 画

レアメタル回収やシロアリ駆除に。
今、話題の森下仁丹カプセル技術！
ハイパープロテクトカプセル®
空腹時に
ビフィズス
カラダを守る胃酸が
ビフィズス菌を鉄も溶かす
「ビフィズス
着せたらどう
共同研究か
カプセルの継ぎ目が
浸み込みにくい
腸まで届く
設計！
品質管
医薬品
乳酸菌
ビフィズ
腸内善玉菌の99.9%が
健全な体内環境づく
注目
ビフィズス菌が
いいこといっぱい!!
その1
正しいリズムで
毎日が楽しい
その2
カラダの中から
健やかに
その3
美容にもいいから
女性にもうれしい